

2024年度環境経営レポート

対象期間：2024年7月～2025年6月



®環境省

エコアクション21

認定番号 000 4 315

マトヤ技研工業株式会社

2025年7月18日発行

目 次

1. 経営理念	… 3
2. 環境経営方針	… 4
3. 組織の概要	… 5～6
4. 認証・登録の対象組織・活動	… 7
＊担当・役割	… 8
5. 2024年環境経営目標及びその実績・評価	… 9
＊過去3年間CO ₂ 排出量推移（電気・ガソリン）	…10
＊機械設置現場（(株)ナンチク様）	…11
6. 2024年環境経営計画実施状況と評価	…12
7. 3カ年環境経営目標と環境経営計画（2025～2027年度）	…13
（1）環境経営目標	
（2）2025年度環境経営計画	…14
8. 環境関連法規等の順守状況	…15
9. 2024年度代表者による全体の評価と見直し・指示	…16
10. 環境活動の紹介	…17～22

1. 経営理念

- 社会的信頼と責任

会社を取り巻く人々と誠意を持って協調し、お客様の視点で考え、お客様に安心して安全な機械装置を提案し、社会的信頼と責任を果たします。

- 会社の発展

永続的発展を第一とする健全経営を推進し、業界の先頭に立ち、絶えず新技術を創造し、社会から支持され、信用される企業経営に努めます。

- 社員の幸福

社員の幸福の達成に努め、社員は産業人として絶えず研鑽に努め、創意工夫と進取挑戦の精神で仕事に取り組みます。

2. 環境経営方針

マトヤ技研工業株式会社 環境経営方針

人類の利便性を求める経済活動が一方では地球環境の破壊に繋がり、人類の存在を脅かしています。マトヤ技研工業は、「社会的信頼と責任・会社の発展・社員の幸福」という経営方針を達成する為に「低炭素・循環型・自然共生社会」を考慮し、省力化・環境配慮機器の開発、製作、販売事業、並びに有益な社内環境活動を通じ、持続可能な社会環境を追及してまいります。

1. 事業活動全般における電力・燃料等のエネルギーの効率利用や水資源の有効利用による環境負荷及びコスト削減を追及し、最適な企業活動を目指します。
2. 省力化機器メーカーとして、お客様に省力化や環境配慮商品を供給し、労働負荷や環境負荷並びにコスト軽減に貢献する企業を目指します。
3. 業務及び製作工程における一般・産業廃棄物の発生を抑制し、発生物は資源への還元を目指します。
4. 当社周辺の緑豊かな地域に鑑み、化学物質の適正保管と使用、排出抑制を行なうと共に生態系への影響の少ない物質への切替えに取り組めます。
5. 地域に育まれる企業として、地域周辺の環境保全に全社員で取り組みます。
6. 環境保全活動をシステムの的に運営し、定期見直しを行い、継続的改善・汚染の予防を積極的に実施します。
7. 環境関連法規及び同意したその他の要求事項を順守する等コンプライアンスの向上を目指します。
8. この環境経営方針は、当社の環境活動の指針として全従業員に周知し、一般の方に公開します。

制定日：2008 年6 月1 日

改定日：2021 年7 月1 日

代表取締役 益留 福一

3. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

マトヤ技研工業株式会社
代表取締役 益留 福一

(2) 所在地

本 社 〒899-8608
鹿児島県曾於市末吉町南之郷3050-6
宮崎工場 〒885-0063
宮崎県都城市梅北町11267
大阪営業所 〒561-0853
大阪府豊中市服部南町1-4-10
東京営業所 〒340-0815
埼玉県八潮市八潮6-16-4
セレクト21八潮南 1号室

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 今村 明 (製造部 部長)
環境事務局 井之上 知美 (総務部)
連絡先 TEL 0986-76-0018
FAX 0986-76-2729
E-mail info@matoya.com

(4) 創 業 1985年6月 (満40年経過)

益留、豊増、山内 の三名で創業。
それぞれの頭文字からマトヤと名付ける

(5) 事業内容

自動省力機器設計・製作及び販売
機械器具設置工事業、管工事業



住宅環境改善の為、男子独身寮建設



地域未来牽引企業

地域未来牽引企業に経済産業省
から選定されています。

(6) 事業の規模 (2024年度：2024年7月～2025年6月)

売上高 1,134百万円

従業員 全体:61名 (役員含む)	本社	宮崎工場	大阪営業所	東京営業所
	32名	23名	4名	2名

(7) 当社のプロセス



食肉・食品関連機械と電子部品生産システム、自動車部品・クーラント関連機械の3部門 特許、実用新案 は 31件をこれまでに登録

<主な製品>



2025. 04.
25 受賞

「第37回 中小企業優秀新技術・新製品賞」
受賞

(りそな中小企業振興財団・日刊工業新聞社
共催、経済産業省中小企業庁・中小企業基盤
整備機構後援)

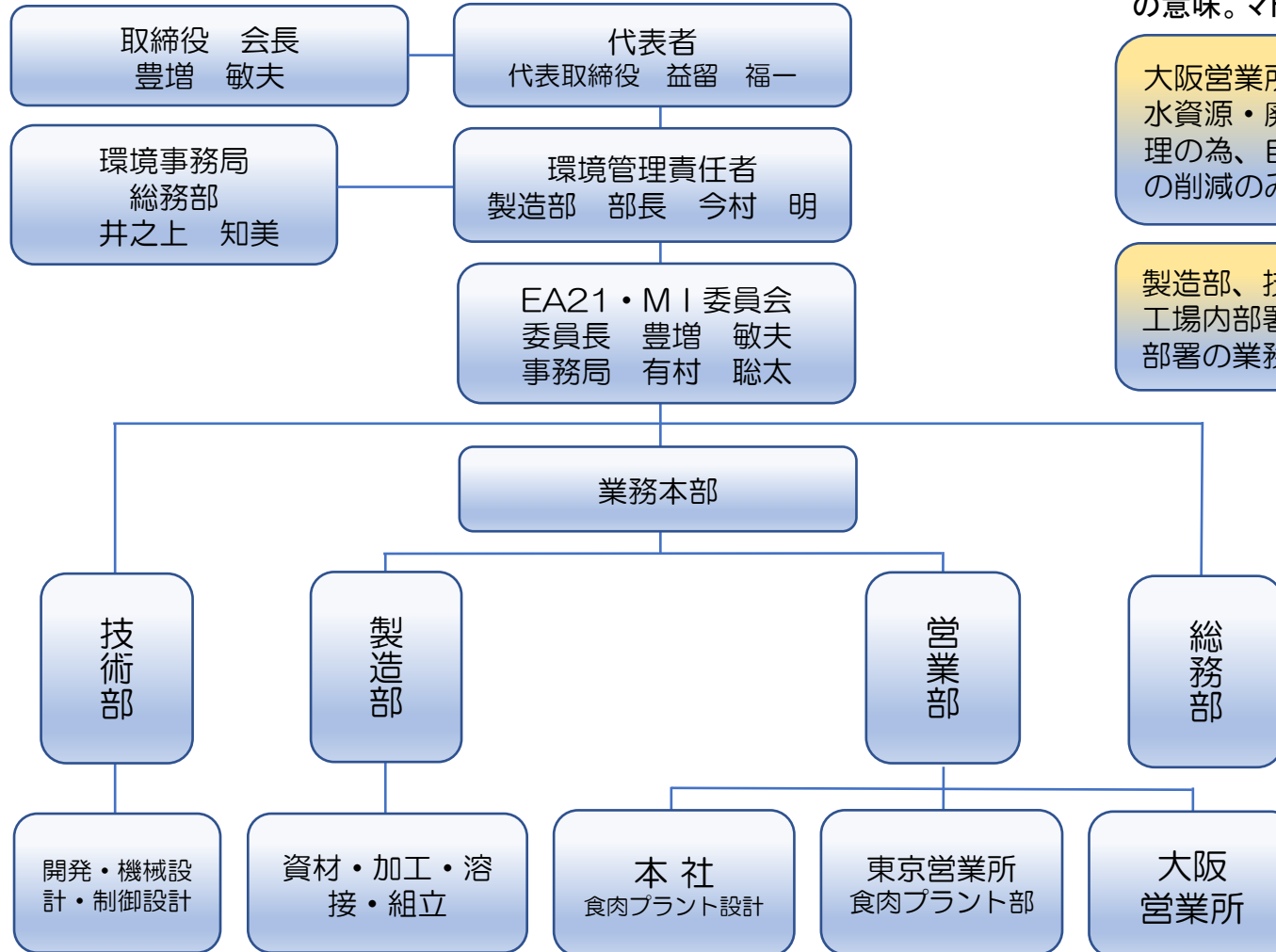
4. 認証・登録の対象組織・活動

適用範囲：マトヤ技研工業株式会社 本社・宮崎工場

大阪営業所・東京営業所

事業範囲：自動省力機器設計・製作及び販売

※MIとは
M: matoya
I: improvement
の意味。マトヤの改善



大阪営業所は、電力・水資源・廃棄物は非管理の為、自動車燃料等の削減のみ適用する

製造部、技術部共に本社工場内部署、宮崎工場内部署の業務が含まれます。

担当・役割



担 当	役割・責任・権限	
代表者 (代表取締役)	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 - 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施	- 環境管理責任者を任命 - 環境経営目標・環境経営計画書の及び承認 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 (製造部 部長)	- 環境経営システムの運用・継続的改善 - 環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口	- 環境関連法規等のとりまとめ表を承認 - 環境経営の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認
環境事務局 (総務)	- 環境管理責任者の補佐 「環境関連法規等取りまとめ表」の作成 - 環境経営目標及び環境経営計画書原案の作成 - 特定された緊急事態への対応の為の手順書作成、テスト、訓練、記録 - 環境経営レポートの作成、公開	- 環境への負荷の自己チェック及び取組み自己チェックの実施 「環境関連法規等取りまとめ表」に基づく遵守評価の実施 - 環境経営の実績集計
EA21・MI委員会 (各部門責任者)	- エコアクション21に関する事項の審議・検討 - 従業員に対する教育訓練の実施 - 環境経営システムの実施・環境経営方針の周知	- 関連する環境経営計画の実施及び達成状況の環境事務局報告 - 問題点の発見、是正、予防処置の環境事務局報告 - 特定された項目の手順書作成及び運用管理
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚 - 決められた事を守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加 - 環境改善への意見提案や環境問題・異常時の上司への報告	

5. 2024年度環境経営目標 及びその実績・評価

1. 二酸化炭素排出量の削減
- 実績評価
- ① 電力の削減：基準年比 本 社 +8.5% ⇒受注増で設備稼働アップ
宮 崎 +27.9% ⇒設計室が本社から移設AC増
東 京 Δ4.7% ⇒ほとんどの月で使用量減
- ② 燃料の削減：基準年比 本 社 Δ29.7% →工事等が少なく移動減
東 京 Δ16.1% →1人なので使用量減
大 阪 +36.1% →人員が増え、移動増
2. 産業廃棄物の削減：リサイクル率 93% →高い目標を達成しています
3. 水使用量の削減：基準年比 本 社 +1.9% →寮の工事が要因となった
宮崎工場 +33.7% →機械テスト・塗装循環水
・人員増による洗面水増
4. 化学物質の低減 ：化学物質の保管管理及び保管場所の 徹底清掃の推進
5. 環境配慮製品の開発及び販売促進
- ①クーラント製品及び遠心分離機等
- ② 業務用 光触媒環境浄化装置⇐2024年度、販売員退職に依り撤退
販売目標 40台 実績22台→自動車業界業績不振の為減少
7. 地域清掃活動
- 2024年度 目標 50回 実績 51回
8. 一般廃棄物削減：活動は行っていますが、少量の為レポートには未記載です。
- ☆大阪営業所では、電力と水資源と廃棄物は共有の為管理できませんので、
自動車の燃料CO₂の削減のみ行いました。
- ☆24年度は現場事務所を設置するような大きな工事が無く、環境データは
ありませんが、単体機械設置を現場で環境に配慮して行っています。

※1) 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の2023年度調整後排出係数
0.402kg-CO₂/kWhで、算出しています

※2) 購入電力のCO₂排出係数は、東京電力の2023年度調整後排出係数
0.408kg-CO₂/kWhで、算出しています

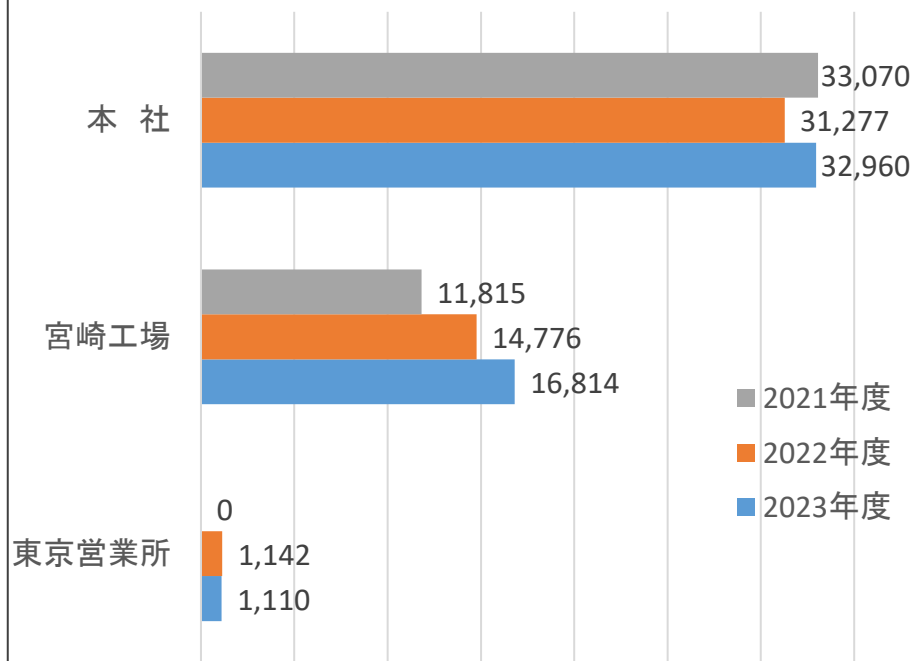
※3) 評価：○は達成、×は未達成

項 目			7 7月～9月 13 10月～12月		基準年度	2024年度 2024年7月～2025年6月		
					2023年度	目標	実績	※3評価
売上高		百万円			1,692	-	1,134	-
電力 CO ₂ 排出量 削減	本社 ※1	kg-CO ₂			32,960	32,630 Δ1%	35,746 8.5%	×
	宮崎 ※1	kg-CO ₂			16,814	16,646 Δ1%	21,502 27.9%	×
	東京 ※2	kg-CO ₂			1,110	1,099 Δ1%	1,057 Δ4.7%	○
	機械設置 現場	kg-CO ₂			252	249 Δ1%	現場事務所無 し	—
	合 計	kg-CO ₂			51,136	50,625 Δ1%	58,305 14.0%	×
燃料CO ₂ 排出量	本社	kg-CO ₂			47,986	47,506 Δ1%	33,731 Δ29.7%	○
	東京	kg-CO ₂			19,338	19,145 Δ1%	16,225 Δ16.1%	○
	大阪	kg-CO ₂			6,730	6,663 Δ1%	9,157 36.1%	×
	機械設置 現場	kg-CO ₂			2247	2,225 Δ1%	現場事務所 無し	—
	合 計	kg-CO ₂			76,301	75,539 Δ1%	59,113 Δ22.5%	○
水資源 排出量	本社	m ³			215	213 Δ1%	219 1.9%	×
	宮崎	m ³			172	170 Δ1%	230 33.7%	×
産業廃棄物排出量		リサイク ル率			87%	87%	93%	○
化学物質の適正管理と 清掃		回			48	48	48	○
環境配慮製品販売量		台			40	40	22	×
地域清掃活動		回			51	50	51	○



過去3年間のCO₂排出量推移

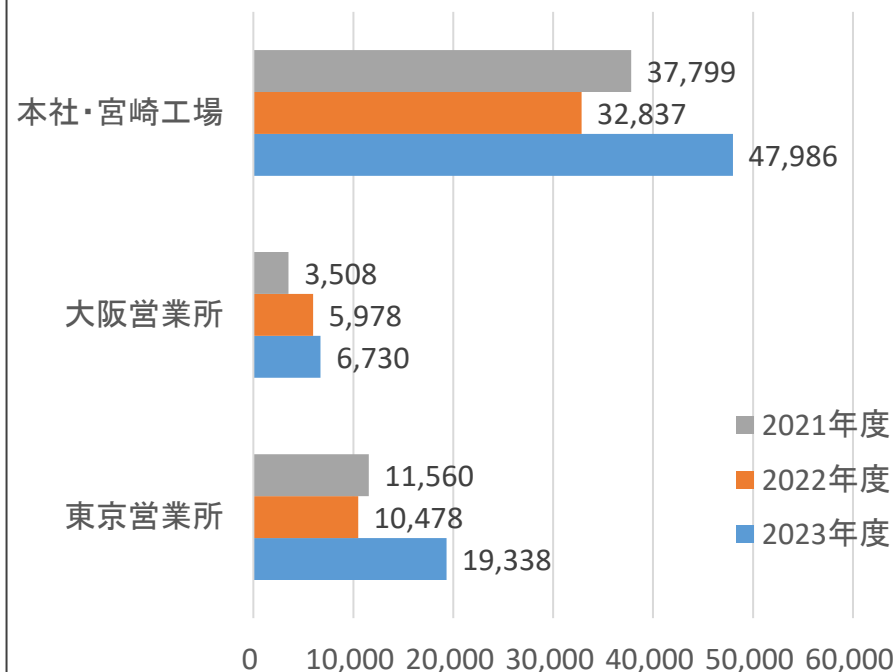
電気 CO2排出量(単位 Kg-CO2)



	東京営業所	宮崎工場	本 社
■ 2021年度	0	11,815	33,070
■ 2022年度	1,142	14,776	31,277
■ 2023年度	1,110	16,814	32,960

・東京営業所 2022年度移転時より集計開始
 ・大阪営業所 間借り事務所の為、集計不可

ガソリン CO2排出量(単位 Kg-CO2)



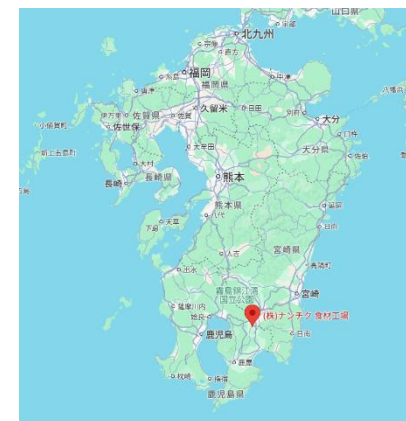
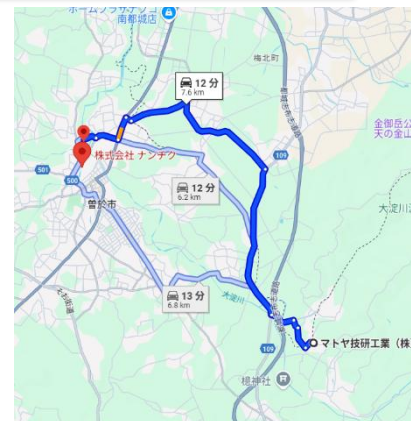
	東京営業所	大阪営業所	本社・宮崎工場
■ 2021年度	11,560	3,508	37,799
■ 2022年度	10,478	5,978	32,837
■ 2023年度	19,338	6,730	47,986

・宮崎工場 本社と管轄が同じなので合計数量にて集計

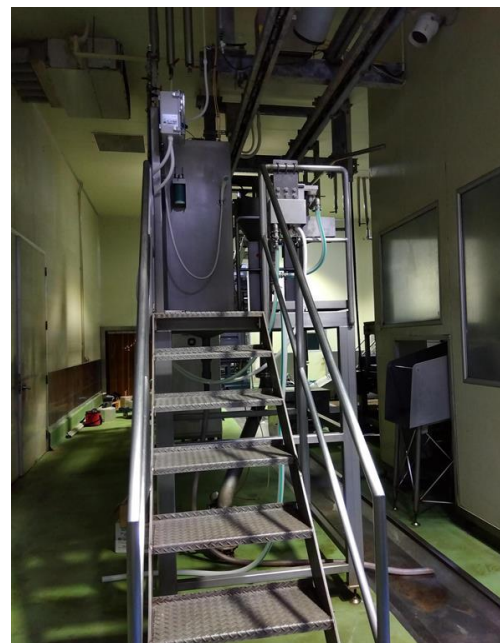
機械設置現場 (株式会社ナンチュ様)

2024.09.15：設置完了

機械設置現場
(最寄り現場)



・設置機器
(ナイフ消毒器3台)



・産廃
(約2.2kg)





6. 2024年度 環境経営計画実施状況と評価

◎よくできた ○できた
△あまりできなかった ×できなかった

取り組み計画	達成状況	評価	取り組み計画	達成状況	評価
電力による二酸化炭素排出量の削減			産業廃棄物(廃プラ)の削減		
冷房温度28℃設定・西陽の当たる部屋は27℃	○	温暖化の影響でエアコン使用量も増えて、電力削減に繋がらなかった。 しかし全社で見ると、人員の移動などが要因で目標は達成できている。	委託処分廃棄物の削減	○	分別は、よくできています。
暖房温度の18℃設定	○		工事での産廃の分別徹底	○	
不要休憩時間照明の消灯	○		産廃ボックスへの廃棄物の最小化	○	
OA機器のこまめOFF	○		旧作業スボンリサイクルの為 回収	○	
エアコンフィルタの定期清掃	○		節水		
宮崎工場天井に扇風機取付(データ取りの為仮設置)	×		雨水の有効利用(洗車等)	◎	本社の方だけ洗車時に雨水を活用しています。
冷房は室温が30度以上になったら付ける	○		蛇口はこまめに閉める	○	
全社電力削減合計＝ -0.2kg-CO ₂	○				
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減			化学物質の低減		
急加速発進の抑制	○	業務内外共に社有車、自車利用時にはエコ運転を心がけています。	化学物質の保管管理及び清掃	◎	毎月、キッチンと管理も清掃も行って、在庫を増やさない努力をしました。
冷暖房の控え目使用(27℃)	○		塗装場清掃徹底1回/月(年12回)	◎	
買換え時はエコカーを購入する	◎		在庫管理を行い在庫を減らす	◎	
一般廃棄物の削減			製品への環境配慮		
裏紙利用両面印刷コピーの徹底	◎	グループウェアの導入で、ペーパーレス化が進みつつあります。	クーラント製品等の販売	△	目標台数には至りませんでした。
ペーパーレス化の推進	○		業務用光触媒環境浄化装置の販売	△	
ミスプリントを減らす	○				
雑誌カタログ段ボールの再生利用への徹底	◎		社会貢献		
シュレッダー廃紙のリサイクル化	◎		公民館の清掃	○	毎週水曜日夕方からの掃除を本社・宮崎工場の全社員で取り組んでいます。
納入業者へ段ボールの引き取り依頼	◎		周辺道路の清掃	◎	

7. 3カ年環境経営目標 と環境経営計画 2025～2027年度

(1) 環境経営目標

★大阪営業所の電力・水資源・廃棄物目標は他社と共有の為管理できないので燃料CO₂排出量の削減の取組を行います。
★東京営業所・大阪営業所では、環境経営方針等の掲示や環境経営レポートの常備、更に定期的な環境学習を行います。
☆現場事務所は、弊社単体での事務所を構えた場合のみ取り組みを行います。
＊今期は現場事務所を構えるような建設工事は無く、現場でのデータ取りはできませんでしたが、すべての機械設置工事現場で、作業者の皆さんが環境に気を付けて作業に取り組んでくださいました。

項 目			基準値 2023年度	2025年度目標 2025年7月～ 2026年6月	2026年度目標 2026年7月～ 2027年6月	2027年度目標 2027年7月～ 2028年6月
電力の削減	本社	kg-CO ₂	32,960	32,301 △2%	31,972 △3%	31,642 △4%
	宮崎工場	kg-CO ₂	16,814	16,478 △2%	16,310 △3%	16,141 △4%
	東京営業所	kg-CO ₂	1,110	1,088 △2%	1,077 △3%	1,066 △4%
	機械設置現場	kg-CO ₂	252	247 △2%	244 △3%	242 △4%
	合計	kg-CO ₂	51,136	50,113 △2%	49,602 △3%	49,091 △4%
燃料CO ₂ 排出量	本社	kg-CO ₂	47,986	47,026 △2%	46,546 △3%	46,067 △4%
	東京	kg-CO ₂	19,338	18,951 △2%	18,758 △3%	18,565 △4%
	大阪	kg-CO ₂	6,730	6,595 △2%	6,528 △3%	6,461 △4%
	機械設置現場	kg-CO ₂	2,247	2,202 △2%	2,180 △3%	2,157 △4%
	合計	kg-CO ₂	76,301	74,775 △2%	74,012 △3%	73,249 △4%
産業廃棄物排出量		リサイクル率	87%	87%	87%	87%
水資源排出量	本社	m ³	215	211 △2%	209 △3%	206 △4%
	宮崎工場	m ³	172	169 △2%	167 △3%	165 △4%
化学物質の適正管理と清掃		回	48	48	48	48
環境配慮製品販売量		台	40	40	40	40
地域清掃活動		回	51	50	50	50



(2) 2025年度環境経営計画



取 り 組 み 計 画

電力の二酸化炭素排出量の削減	一般廃棄物の削減	節 水
・ 冷房温度28℃設定	・ 裏紙使用・両面印刷コピーの徹底	・ 雨水の有効利用（洗車等）
・ 暖房温度の18℃設定	・ ペーパーレス化の推進	・ 蛇口はこまめに閉める
・ 不要・休憩時間照明の消灯	・ ミスプリントを減らす	化学物質の低減
・ O A 機器のこまめOFF	・ 雑誌、カタログダンボールの再生利用への徹底	・ 化学物質の保管管理及び清掃
・ エアコンフィルターの定期点検・清掃	・ シュレッダー廃紙のリサイクル化	・ 塗装場清掃徹底1回/月(年12回)
・ 宮崎工場天井に扇風機取付 (データ取りの為仮設置)	・ 納入業者へ段ボールの引取り依頼	製品への環境配慮
・ 建設現場：チェックリストでの実践		・ クーラント製品
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減	産業廃棄物（廃プラ）の削減	・ 業務用光触媒環境浄化装置の販売
・ 急加速発進の抑制	・ 委託処分廃棄物の削減	社会貢献
・ 冷暖房の控えめ使用（27℃）	・ 工事での産廃の分別徹底	・ 公民館の清掃
・ 買換え時はエコカーを購入する	・ 産廃ボックスへの廃棄物の最小化	・ 周辺道路の清掃

8. 環境関連法規制等の順守状況

環境関連法規制等の遵守状況 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	規 制 内 容	適用される施設物品等	適用される法規制	規 制 内 容	適用される施設物品等
廃棄物処理法 (一般廃棄物)	- 一般廃棄物の収集運搬業者への委託 - 契約（覚書）及び許可証写し保管（許可期限切れ更新）	一般廃棄物（紙くず、段ボール、厨芥、包装等）	資源有効利用促進法	- 別名：リサイクル法 - 使用済パソコン等のメーカー回収義務	社内パソコン
(産業廃棄物)	- 委託先許可業確認 - 収集運搬・処理業者との契約（委託契約・産廃管理票発行・5年間保管） - 産廃保管基準、保管置場の表示 - 産業廃棄物管理票交付等状況の行政報告 - 自社による運搬時の表示・書類携行 - 多量排出業者、産廃処理計画・実施状況報告書提出、特別管理産業廃棄物管理責任者の設置	廃プラ 金属くず 廃油 廃酸 コンクリートくず	騒音規制法	特定施設の届出 空気圧縮機7.5kW以上。規制基準の遵守	空気圧縮機7.5kW 2台
			毒物及び劇物取締法	- 事故時連絡 - 保管場所の表示 - 盗難、流出防止	硝酸
			労働安全衛生法	- 有機溶剤の適正な管理 - SDSの周知	塗料用溶剤
浄化槽法	- 設置届出・浄化槽の維持管理 - 定期点検・定期清掃・定期水質検査	合併浄化槽	フロン排出抑制法	- フロン類回収・破壊の適正取扱い - 業務用エアコン・冷凍冷蔵庫管理者の簡易・定期点検、漏洩量行政報告義務	業務用空調設備 コンプレッサー
自動車リサイクル法	使用済み車は引き取り業者に引き渡す。新車購入時にリサイクル費用を支払う	自動車			
家電リサイクル法	家電製品の廃棄時にリサイクル料金支払い	TV、冷蔵庫、家庭用エアコン	建設業リサイクル法	- 建築廃棄物リサイクル - 分別解体、再資源化	混載（廃プラ） 木くず

環境関連法規及び条例等への違反、また訴訟等の有無について、2025年6月30日に確認した結果、法律違反等はありません。
また、地域住民からの訴訟や苦情や要望などは創業以来ありません。（2025年6月30日現在）

9. 2024年度 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 環境活動の取組み結果の評価

○産業廃棄物のリサイクル率は93%。昨年度より若干下がりましたが良い結果です。

○電力削減では、宮崎工場にエアコンを設置して以来電力使用量が減らずに20%以上、上回っています

今後も空調の適正な温度管理と、夕方は空調を切る、空調服の併用等で電力削減の取組みを継続してください。

2. 実績の評価

電力削減・・・ 本社工場は、昨年9月以降目標が達成できていません。受注増で設備の稼働アップが要因と考えられます。宮崎工場の目標未達は設計が移転したことや、塗装場が新たに増設されたことも影響しているのもあるだろうと思われます。

宮崎工場は天井部分に溜まる熱の空気を扇風機拡散させるテストが実施できませんでした。しかし温度差は3～4℃あることが確認できました。来期は必ず実施してください。設計が宮崎工場に移動し、電力消費が上がるだろうと見込んでいましたが想定通り増えました。

自動車燃料等の削減・・・ 本社は7・8月達成できず、その後の10か月は達成できました。SEミートの工事がなくなった効果と思われます。仕事の量に比例することが証明された形となりました。プラントが終わったことで軽油の使用量も半分以下になりました。

大阪営業所は、7～10月はクリアしましたが、以後8か月に亘りクリアできませんでした。11月に車が1台増えましたが、1月に使用量が急に増えました。3～5月は走行距離が大幅に増えています。人員増も影響していると思われます。

東京営業所は、積載貨物改善の為にバン型（ハイエース）に1台入れ替えました。燃費が軽油に変わった上に3月から1人態勢になり、1年を通して毎月クリアできました。省エネ運転取り組んでください。

産業廃棄物・・・ 年間のリサイクル率は93%昨年より降下しましたが高い達成率です。今後も仕分けを確実に行って資源の回収に取り組めます。

水資源の節水・・・ 本社工場は目標の213m³から219m³と1.9%増加。宮崎工場では目標172m³から230m³と33.7%増加しています。塗装場で床に水を流すようにしたことが主な要因と思われます。今後も雨水の利用を行い皆で削減に取り組んでください。

化学物質の適正管理及び清掃・・・ 毎月適正に管理できました。清掃に於いては目標48回100%達成で清掃活動が出来ました。今年は特に志布志の飼料ホッパー等大型の塗装物が有り、塗装の量が増えました。今後も、在庫量の適正化に取り組んでください。

環境配慮製品の開発販売・・・ マグネットコンベア関係が40台目標に対し、22台と目標は達成できませんでした。お客様のニーズを聞き新製品の開発にも取り組みます。

地域清掃活動・・・ 毎週の地域清掃及び工場周辺の清掃ができています。今後も、引き続き地域の人と助け合って行き、良い関係を築いて行きます。

5月末には地域の方々に工場の見学会も開催でき、連携を深めることもできました。消防団員にも加入して地域の連携を深めることが出来ました。

実施体制について・・・ 大きな変化はありませんでした。

3. 今後の取組み

BCPも昨年、社内の取組枠組みを作りました。非常時の最低限の水や食料なども購入して備えています。

SDGsは世の流れとして当たり前になってきています。企業として人間社会を守り継続するために今期は本格的にシフトしていきます。

10. 環境活動の紹介



1. 環境経営方針の周知



全社員を対象に、エコの報告会を行っています



平成27年度に受賞したエコアクション21環境活動レポート大賞地域社会貢献賞のパネルや賞状も掲示しています。



エコ新人研修を受講していない社員を対象に行ないました。



社員へ個人でSDGsへの目標を決めてもらいました。



2. 緊急事態の訓練



年一回の防災訓練を行いました。
今年の防災訓練は、本社 給湯室給茶機から出火と想定して、火災報知機も実際鳴らしました。
また、フクシゲ防災様から、消火器の使い方を習い、水入りの消火器で実践しました。



酸洗いの液が流出した場合の対策の勉強もしました。



毎年、火災警報器の点検と消火器の点検をしています。
火災報知機の手配りについても学びました。

3. 環境経営の周知

大阪営業所掲示物状況



東京営業所 掲示物状況



大阪営業所・東京営業所の事務所にも認定証、環境経営方針を掲示して活動しています。

4. 二酸化炭素排出量の抑制



社有車は、全社で14台の内
エコカーはHV車が7台、HEV車が1台です。
安全を配慮してオートマチックにし、カーナビ
を取り付けています。



制服の中古品
が沢山ありましたので、社
内フリーマー
ケットを開催
して社員の皆
様に再利用し
ていただきました。



5. 資源の効果的活用の推進



事務所で集めた古切手・ペットボトルキャップは、川内なでしこライオンズクラブへ贈呈し、古切手はガザ地区での粉ミルク1缶（400g）になったり、キャップはポリオワクチンになったりしているようです。使用済みインクカートリッジはエコリカでテプラの使用済みカートリッジはカシオで回収してもらいリサイクルしています。社内で出たテープの巻き芯は「ニチバン巻き芯プロジェクト」へ送り資源再利用などの活動に活用されています。



6. 化学物質の適正な管理及び清掃



塗装場はいつも清掃を行ないチェックリストに記入しています。

在庫管理もしっかりしており、余分な在庫は置かないようにしています。

塗装料を使う時の、注意書きも貼り出しています



7. 製品への環境配慮

- ・環境配慮型クーラント製品の開発・販売

自動脱油冷却装置



脱油システム



ホーニング機用
クーラントユニット



マルチマグ
ネットローラ
コンベア



スパイラル
コンベア



マグネットコンベアは、機械部品加工会社の機械に取り付けて、切り粉をクーラント液の中から自動的に取り出すことによって、クーラント液の寿命を延ばし、クーラント液の使用量を減らす効果があります。(廃液が減る)
マグネットコンベアを応用して脱油システムやホーニング機用クーラントユニットを製作します。

8. 地域の環境保全事業への参加



社員駐車場・公民館の草刈りや、地域の清掃を毎週水曜日 安全第一で行っています。
今年度は、傾斜面用草刈り機を購入して更に安全性が向上しています。



宮崎工場前の花壇には、花の苗を植えていつも綺麗な花が咲いています。冬には、省力LED電飾で夜道を綺麗に照らしています。